

審判委員会新体操女子審判本部では全国のコーチ、選手、審判の皆様の作品創作・採点の学習等にお役立ていただくために、平成29年より新たに採用される2017-2020FIG採点規則の概要を発行致します。

下記の内容につきましては平成29年1月の大陸間講習・2月1種義務研修などにおいて訂正・変更の可能性がございますので、その都度ご確認をお願い致します。

2017-2020 新体操採点規則概要

* 難度(D)

| 個人競技 (シニア) | | | |
|---|--|---------------------------|---|
| 最高 10.00 点【加点】 | | 難度要素は手具の技術要素と組み合わせる | |
| BD 身体難度 | S ダンスステップ コンビネーション | R 回転を伴った ダイナミック要素 | AD 手具難度 |
| 最低 3 個 ; 最高 9 個 価値 0.10~ 最も高い難度から 9 個をカウント | 最低 1 個 価値 0.30 | 最低 1 個 基礎価値 0.20 | 最低 1 個 価値 投げを伴わない または 手具の投げの最中 中くらい大きな投げ の後の受けの最中 } 0.3 } 0.4 |
| ジャンプ/リープ-最低 1 個 バランス-最低 1 個 ローテーション-最低 1 個 | 最低 8 秒 最低 1 つの基礎技術要素 利き手でない手にて最低 1 つの手具技術要素 (ロープ・クラブは不要) | 最低 2 回の身体の回転 360° の各回転 | 最低 1 つのベース+最低 2 つの基準 または 最低 2 つのベース+最低 1 つの基準 |

| 団体競技 (シニア) | | | | |
|---|-----------------------|--------------------------|-------------------------|---------|
| 最高 10.00 点【加点】 | | 難度要素は手具の技術要素と組み合わせる | | |
| BD 交換を伴わない難度 身体難度 最も高い難度から 5 個をカウント | ED 交換を伴う難度 交換難度 | S ダンスステップ コンビネーション | R 回転を伴った ダイナミック要素 | C 連係 |
| | | | | |

| | | | | |
|--|-----------|--|--------------|---|
| 最高 9 個 (選択による) | | 最低 1 個 | 最低 1 個 | 最低 4 個 |
| 最低 4 個 | 最低 4 個 | 価値 0.30 | 基礎価値 0.20 | 価値 0.1~ |
| ジャンプ/リープ-最低 1 個 バランス-最低 1 個 ローテーション-最低 1 個 | 基本価値 0.2~ | 最低 8 秒 最低 1 つの基礎技術要素 利き手でない手具技術要素の必要なし | 最低 2 回の身体の回転 | 連係動作 (群) には異なる役割を伴ったとしても 5 名全ての選手が参加する事 |

| 個人競技 (ジュニア) | | | |
|---|--|--------------------------------|---|
| 最高 8.00 点【加点】 | | 難度要素は手具の技術要素と組み合わせる | |
| BD 身体難度 | S ダンスステップ コンビネーション | R 回転を伴った ダイナミック要素 | AD 手具難度 |
| 最低 3 個 ; 最高 7 個 価値 0.10~ 最も高い難度から 7 個をカウント | 最低 2 個 価値 0.30 | 最低 1 個 基礎価値 0.20 | 最低/最高なし |
| ジャンプ/リープ-最低 1 個 バランス-最低 1 個 ローテーション-最低 1 個 ボールとリボンで 2 つの BD 中に、利き手でない 手にて基礎技術要素を実施 | 最低 8 秒 最低 1 つの基礎技術要素 利き手でない手にて最低 1 つの手具技術要素 (ロープ・クラブは不要) | 最低 2 回の身体の回転 360° の各回転 | 最低 1 つのベース+最低 2 つの基準 または 最低 2 つのベース+最低 1 つの基準 |

| 団体競技 (ジュニア) | | | | |
|--|------------------------------|--|--------------------------------|---|
| 最高 8.00 点【加点】 | | 難度要素は手具の技術要素と組み合わせる | | |
| BD 交換を伴わない難度 身体難度 | ED 交換を伴う難度 交換難度 | S ダンスステップ コンビネーション | R 回転を伴った ダイナミック要素 | C 連係 |
| 最高 7 個 (1 つずつ) | | 最低 2 個 | 最低 1 個 | 最低 4 個 |
| 最低 3 個 | 最低 3 個 | 価値 0.30 | 基礎価値 0.20 | 価値 0.1~ |
| ジャンプ/リープ-最低 1 個 バランス-最低 1 個 ローテーション-最低 1 個 | 基本価値 0.2~ | 最低 8 秒 最低 1 つの基礎技術要素 利き手でない手具技術要素の必要なし | 最低 2 回の身体の回転 | 連係動作 (群) には異なる役割を伴ったとしても 5 名全ての選手が参加する事 |

<手具技術要素>

- ・個人競技は各演技において最低 1 要素を各基礎技術グループから実施する。
- ・団体競技において基礎技術グループは必須ではない。(S においては必須)。
- ・シリーズ以外での BD 中の同じ手具操作は無効となる。

<音楽>

- ・言葉を伴った音楽・団体競技 1 演技まで、個人競技 2 演技まで使用することができる。

<BD 身体難度>

- ・ジャンプ/リープまたはピボットはシリーズにて実施することができる。
シリーズ中の各ジャンプ/リープまたは、ピボットはそれぞれ 1 つの難度としてカウントする。
- ・足によるバランスはルルベまたは踵をついて実施できる。踵をつく場合、価値が 0.1 下がる。
- ・ルルベまたは踵をつけた 180° またはそれ以上のスローターンを伴った難度を、演技の中に 1 度のみ実施することができる。
- ・フェットバランス(1 難度)には 90° または 180° の最低 1 回の回転を伴うこと。フェットバランス中に 1 つの基礎または基礎でない手具の技術要素が伴うこと。
- ・ローテーション難度は、最低 1 つの基礎手具技術グループ/または基礎でない手具技術グループがローテーションのどこかの部分において実施されなければならない。
- ・形の変化を伴うピボットは 1 難度としてカウントする。各ピボット難度において最低 1 つの基礎手具技術グループ/または基礎でない手具技術グループが実施されなければならない。
- ・フェットピボット (1 難度としてカウント) は様々な形 (単独にて、または同じ “フェット” の中で連続または交互に組み合わせて) 行うことができる。
“フェットピボット” “イリュージョン” は 2 回転ごとに 1 つの異なる基礎手具技術グループ/または基礎でない手具技術グループが必要になる。
- ・基礎価値が 0.1 のピボット、踵をつけたローテーション、身体の他の部位による追加回転：基本回転+360° の価値に各追加回転+0.1。ルルベでの追加回転：基本回転+360° の価値に各追加回転+0.2。
- ・身体難度に追加のプレアクロバット・波動を付け加えることができるが加点はない。
- ・ジュニア選手は BD を膝つきで実施することは推奨されない。
- ・シニア選手は 0.1 の価値を超える BD が 9 個より多くあってはならない。(ジュニア選手は 7 個)。

<S ダンスステップコンビネーション・R 回転を伴ったダイナミック要素・AD 手具難度>

- ・S には 1 個の価値が最高 0.10 点を超えない BD を伴うことができる。
- ・同じプレアクロバット要素は R と AD に 1 回ずつ使用できる。
- ・回転を伴った 2~3 つのジャンプ/リープシリーズを、1 回目ジャンプ中に投げ、2 回目または 3 回目のジャンプ中に受けることは R としては認められない。
- ・AD は手具と身体の間と同調性を保つには技術的に難しいもの、興味深いまたは革新的な手具の使い方 (新体操の基本的な手具操作ではない) ことが定義となる。

<団体>

- ・シニアは0.1より価値の高いBDを5個より多く実施してはいけない。
- ・5名の選手が同時に3個またはそれ以上の身体難度を実施することは許可されない。
- ・選手のうち一番低い価値にて実施されたBDが、その団体のBD価値となる。
- ・価値が0.1の身体難度をED中に実施することができる。

<Rの追加基準一覧>

| 手具が空中にある間 | |
|-----------------------------------|---|
| 記号 | R追加基準 + そのつど 0.10 |
| R ₃ 、R ₄ など | 手具が空中にある間、身体のあらゆる軸による追加の回転 |
| ∑ | 回転中の身体の回転軸の変更と/または高さの変更（軸と高さは各Rに各1回のみ与えられる） |

| 手具の投げの最中 | | 手具の受けの最中 | |
|----------|------------------------------------|----------|---------------------------------|
| 記号 | 全ての手具に対しての総基準 そのつど + 0.10 | | |
| | 視野コントロール外 | | |
| | 手（両手）の補助なし | | |
| | 回転中の受け | | |
| | 脚/両脚の下から | | |
| 記号 | 投げの特殊な基準 そのつど + 0.10 | 記号 | 受けの特殊な基準 そのつど + 0.10 |
| | 投げの最中に手具をくぐり抜ける (U、O) | | 受けの最中に手具をくぐり抜ける (U、O) |
| | 床上での突きの後の投げ、床上での転がしの後の投げ | | 一切静止のないダイレクトな投げ返し/リバウンド — 全ての手具 |
| | Uを開いて伸ばした状態（ロープの片端または真ん中を保持して)での投げ | | ロープの各端をそれぞれの手にて受ける |
| | (O、II)の軸回転を伴った投げ | | 身体上を転がしながらのダイレクトな受け |
| | 2本投げ (II)：同時に、非対称に、“滝状”に（2回または3回）* | | 片手によるボールの受け(●) |
| | 斜めの面での投げ O | | Oを回しながらダイレクトに受ける |
| | | | U、IIのミックス受け |

<AD の基準一覧>

| 記号 | 基準 |
|---|---|
|  | 手（両手）の補助なし |
|  | 視野コントロール外 |
|  | (180° とそれ以上) の回転を伴う |
| BD | ジャンプ、バランスまたはローテーション身体難度 |
|  | ロープとフープを後方に回す（開いた状態または折った状態） ロープ - ジャンプ/リープまたはスキップ/ホップの最中に腕を交差する |
|  | 片脚/両脚の下から |
|  | 最低2か所の異なる身体の部位による、手（両手）の補助なしでの持ち替え |
|  | 中断なくシリーズにて実施 |
|  | ジャンプ/リープもしくはスキップ/ホップ中の手具の2重（またはそれ以上の）回し |
|  | 床上の位置にて（膝立ちも有効） |
|  | 投げまたは受けの最中に手具をくぐり抜ける |
|  | 床上での突き後の投げ 床上での転がしの後の投げ ダイレクトな投げ返し/リバウンド |
|  | 開いて張った状態での  の投げ（ロープの片端または真ん中を持って） |
|  | 軸回しを伴った投げ（フープ、クラブ） |
|  | クラブの2本投げ(): 同時、非対称、“滝状”（2回または3回）* |
|  | ロープの各端をそれぞれの手にて受ける |
|  | 2本のクラブでの小さい/中くらいの非対称の投げ |
|  | 身体上にて手具を転がしながらダイレクト受け |
|  | 片手によるボール()の受け |
|  | ○の回しながらのダイレクト受け |
|  |  ,  のミックス受け |

<団体交換の追加の基準一覧>

| 解説/例 | |
|---|---|
| 基準：0.10 各投げと/または受け 注意：基準を投げの直前または受けの直後に実施することは、交換の価値を上げる要素にならないものとする。 | |
|  | 距離：投げと/または受けの最中に選手間に6メートルの距離（構成の一部として実施された場合） |

| | |
|-----------|--|
| | 座位での投げと/または受け：選手は先に座位になること、また投げと/または受けの最中に移動してはならない（構成の一部として実施された場合） |
| | 交換の投げの最中、空中にある間、受けの最中に1つの回転要素 |
| | 投げ返し |
| BD | 投げまたは受けの際に0.10の価値のBDを伴って |
| | 視野外 |
| | 手(両手)の補助なし |
| | 2本のクラブを同時に、または非対称で、または滝状で |
| | 脚/両脚の下から |
| | フープの斜め投げ○ |
| | 投げと/または受けの最中に手具をくぐり抜ける(∪, ○) |
| | 床上での突きの後の投げ/床上での転がしの後の投げ |
| | ∪を開いて伸ばした状態(ロープの片端または真ん中を保持して)での投げ |
| | ロープの各端をそれぞれの手にて受ける |
| | (○, ∪)の軸回転を伴った投げ |
| | 身体上を転がしながらのダイレクトな受け |
| | 片手によるボールの受け(●)、または1本のクラブを保持したままの手で 2本目のクラブを受ける∪ |
| | ○を回しながらダイレクトに受ける |

<団体関係の一覧>

| 価値 | | | 関係の種類 |
|----------|-----------|-----|--|
| 0.1 | 0.2 | 0.3 | |
| C | | | 手具の投げを伴わない： ・選手または手具が、動いている手具またはパートナーの上、下、または中をくぐり抜ける |
| | CC | | 投げを伴うまたは手具の複数交換 ・投げ：1つまたはそれ以上の手具の小さい、中くらい、または大きい投げ ・交換：パートナー間での異なる技術による受け渡し：転がし、床上での転がし、バウンド |
| | | | 2つまたはそれ以上の手具による同時投げ（中くらいまたは大きい） 注意：最低3本のクラブの投げ、または1本（または2本）のクラブ+1つの追加手具 |
| | | | 2つまたはそれ以上の手具を、中くらいまたは大きい投げから同じ選手が同時に受ける 注意：最低3本のクラブの受け、または1（または2）本のクラブ+追加手具 |

| 価値 | | | | 関係の種類 |
|---|--------------------|---------------------|-------------|---|
| 0.2 | 0.3 | 0.4 | 0.5 | |
| CR 1名 | CR2 2-3名 | | | <p>1 / 2名または数名の選手が自分の手具を投げ、以下のことを行った直後に自分のまたは相手の手具を受ける：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手具が空中にある間に、視野コントロールを失う身体の回転を伴ったダイナミック要素 ・パートナー(達)の補助を伴うダイナミック要素を実施することが可能である(リフティング) |
| | CRR 1名 | CRR2 2-3名 | | <p>1 / 2名または数名の選手が自分の手具を投げ、以下のことを行った直後に自分のまたは相手の手具を受ける：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手具が空中にある間に、視野コントロールを失う身体の回転を伴ったダイナミック要素 ・1つまたは数個の手具と/またはパートナーの上、下、中をくぐり抜ける ・1名またはそれ以上のパートナーの補助と/または1つまたはそれ以上のパートナーの手具の上、下、中をくぐり抜けることが可能である：選手(達)または手具、または1名またはそれ以上のパートナーと/または手具によるリフティングでの積極的な支持 |
| | | | CRRR | <p>1名または数名の選手が自分の手具を中くらいまたは大きく投げ、以下のことを行った直後に自分のまたは相手の手具を受ける：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手具の視野コントロールを失う身体の回転を伴ったダイナミック要素を伴って、手具が空中にある間にパートナーの手具をくぐり抜ける(手具はパートナーによってもくぐり抜ける選手によっても保持されてはならない) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・回転を伴う関係では、同時投げ  または同時受け  を伴った関係と組み合わせることができる。この場合、2つの要素の価値を追加して関係の価値となる。 ・回転を伴う関係は C または CC とは組み合わせることはできない。 | | | | |
| <p>、、CR、CRR、CRRR の追加基準：</p> <p> 手(両手)以外にて：+0.10</p> <p> 視野外にて：+0.10</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最低1名の選手によって関係の主要動作が実施された場合：視野コントロールを失う身体の回転を伴って ・回転を伴う関係1回ごとに有効：投げと/または受け | | | | |

*実施(E)

| 個人競技 (E) 10.00 満点【減点】 | |
|--|---------------|
| 芸術的欠点 | 技術的欠点 |
| 構成の統一性 ・アイデアのガイド ・つなぎ ・リズム ・ダイナミックな変化 ・身体表現 多様性 ・方向 ・高さ移動 ・手具要素 ・手具の飾り要素 | ・身体の動き ・手具 |

| 団体競技 (E) 10.00 満点【減点】 | |
|---|---------------|
| 芸術的欠点 | 技術的欠点 |
| ・手具/選手の接触 ・アイデアのガイド ・リズム ・ダイナミックな変化 ・身体表現 多様性 ・フォーメーション ・交換 ・関係 ・共同作業 ・方向と移動 ・手具要素 ・手具の飾り要素 | ・身体の動き ・手具 |